

循環型社会形成へ

限られた資源を有効に使い、環境への負荷を低減するため、廃棄物の減量や物品の再利用、再資源化などの取り組みが求められている。鳥取県西部の企業でも循環型社会の形成に向けた動きが活発化。リユースショップの店舗展開、家庭向け不用品回収サービス、バイオマス発電の焼却灰をリサイクル活用した取り組みを紹介する。

鳥取県西部企業の動き

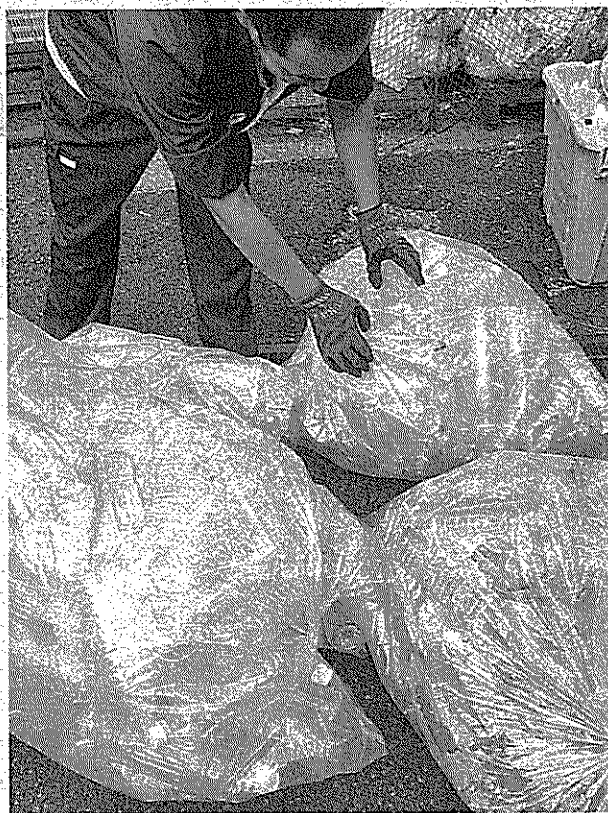
◎不用品回収サービス

「ほつき小僧」(米子市)

「ほつき小僧」は、みつわ衛生社(米子市安倍)が展開する不用品回収サービスだ。処分が困難な大型の家具や積年のごみなど、「捨てたくても、捨てられない」悩みを解消。解体や分別をした上でリサイクルにつなげている。みつわ衛生社は、一般廃棄物収集運搬業として創業約60年の実績を持つ。近年、ごみの分別回収が進む一方で、大型ごみなどの処分に悩むケースも増えている。不法投棄や高額請求などのトラブルも後を絶たないこと

から、地域に貢献するサービスを目指し、5年前に「ほつき小僧」を立ち上げた。依頼件数は年間約600件。明確な料金設定と丁寧な作業で、リピートも多い。引越などの際の不用品処分の場合、高齢者からの依頼も多く、「片付けたくても一人ではできず、助かった」など、感謝の声が寄せられているという。

「捨てたい悩み」を解消



回収したペットボトルは分別し、リサイクルにつなげる

思いや考え方を大切に

業所」の認定を受けており、幅広いニーズに対応する。見積もりを担当する竹歳秀一朗さんは「まずはお客さまの話を大

切にしながら作業していただきます」と話す。

リサイクルを推進する上で欠かせないのが、ごみの分別だ。竹歳さんは「企業の方だけでは限界

があります。一人一人が日々の分別を心掛けることで、社会全体でリサイクル意識を高めていけたら」と展望している。